幼児期における他者からの批判的評価に対する反応

批判者の属性の影響の検討

○溝川 藍

(明治学院大学 心理学部)

キーワード：批判に対する感受性、他者理解、幼児

Young children's sensitivity to criticism: It depends on who is a criticizer

Ai Mizokawa

(Department of Psychology, Meiji Gakuin University)

Key Words: Sensitivity to criticism; Understanding of others; Young children

目 的

失敗場面や、教師から批判を受ける場面での子どもの反応には、ポジティブ情動を維持し次は上手くいくと考える「熟達志向型」と、ネガティブ情動を感じネガティブな自己認知を持つ「無力感型」がある (e.g. Diener & Dweck, 1978)。これらの思考の個人差が顕著に現れるのは9~10歳頃であるが、失敗が明白な場面（例えば、失敗を他者から指摘される場面）では、5, 6歳児でも無力感型の反応を示す子どもがいることが明らかになっている (e.g. Heyman et al., 1992)。しかし、教師以外の他者からの批判に対する子どもの反応に関する研究は未だ少なく、他者から批判を受ける場面での日本の子どもの反応の個人差についても未検討な点が多い。本研究では、5, 6歳児の「教師及び仲間からの批判的評価に対する反応」について検討し、失敗の指摘・批判をする相手によって、その反応がどのように異なるかを明らかにする。

方 法

参加者：東京都内・京都市内の保育所に通う年長児 89 名（男児 43 名，女児 46 名；平均年齢 6 歳 4 か月）。

材料と手続き：個別に「言語課題 (PVT-R)」と、Heyman ら (1992) の課題をもとに作成した「失敗・評価課題」を実施した。「失敗・評価課題」は人形劇で提示し、参加児役の人形と、「他者」役（教師または仲間）の人形が登場した。「他者」として教師が登場する課題を実施する教師条件には 42 名が、仲間が登場する課題を実施する仲間条件には 47 名が割り当てられた。参加児は、自分の役の人形が 3 種類の創作活動をする場面の物語を聞き、質問に答えた。どちらの条件でも、最初に「参加児役の人形が小さな失敗をするが評価を受けない物語（失敗ストーリー）」を、次に「参加児役の人形が小さな失敗をした後、他者役（教師または仲間）の人形から批判的評価を受ける物語（批判ストーリー）」を、最後にデブリーフィングとして「参加児役の人形の創作活動を他者が称賛する物語」を提示した。質問は失敗ストーリーと批判ストーリーの後に実施した。参加児役の人形の物語中の「情動（喜び、悲しみ、怒りの有無）」、「作品評価（上手、下手）」、「再挑戦の意欲（有、無）」について図版を示しながら質問し、それぞれ 2 つの選択肢からの選択回答を求めた。

表 1. 「失敗・評価課題」の各質問における得点の平均値 (括弧内は SD)

質問	教師条件 (n = 47)			仲間条件 (n = 42)		
	批判 story	失敗 story	批判 vs. 失敗	批判 story	失敗 story	批判 vs. 失敗
情動 (0-3 点)	1.09 (.75)	2.36 (.85)	***	1.05 (.61)	2.50 (.74)	***
作品評価 (0-1 点)	.34 (.48)	.68 (.47)	***	.55 (.50)	.83 (.38)	**
再挑戦 (0-1 点)	.81 (.40)	.87 (.34)	n.s.	.64 (.49)	.83 (.38)	*

得点化：「情動」質問では、よりポジティブな情動を感じている場合に得点が高くなるよう得点化した。すなわち、喜びは「あり (1 点)」なし (0 点)」、悲しみと怒りは「あり (0 点)」なし (1 点)」と得点化し、その合計点を情動得点とした。「作品評価」質問では、失敗や批判の後に自分の作品を「上手」だと判断した場合に 1 点、「下手」だと判断した場合に 0 点を与えた。「再挑戦の意欲」については、失敗や批判の後と同じ創作活動に「もう一度挑戦する」と答えた場合に 1 点、「他の楽しいことをする」と答えた場合に 0 点を与えた。

結 果

「失敗・評価課題」の各条件・各ストーリーにおける各質問の得点の平均値は、表 1 に示した。事前分析から、言語能力と月齢は、これらの得点に影響しないことが示された (n.s.)。まず、幼児が教師・仲間から失敗を批判された際に無力感型の反応を示すかどうかを調べるために、条件ごとに、各質問の得点（情動、作品評価、再挑戦の意欲）を、ストーリー間で比較した。その結果、教師条件では、単なる失敗後よりも失敗を批判された後の方が、よりネガティブな情動を感じ ($t(46) = 7.03, p < .001$)、作品評価が低いことが示された ($t(46) = 4.47, p < .001$)。再挑戦の意欲には有意差はなかった (n.s.)。仲間条件では、全ての指標で、単なる失敗後よりも失敗を批判された後の方がネガティブな反応を示すことが示された (情動: $t(41) = 8.49, p < .001$, 作品評価: $t(41) = 3.34, p < .01$, 再挑戦の意欲: $t(41) = 2.71, p < .05$)。さらに、各質問の得点を条件間比較したところ、教師に批判された後の方が仲間に批判された後よりも作品評価が低く ($t(87) = -1.99, p = .05$)、再挑戦の意欲が高い傾向にあることが示された ($t(87) = 1.77, p < .10$)。

考 察

本研究の結果から、幼児は、異なる他者から同じ言葉で批判的評価を与えられた際に、他者との関係性を考慮して異なる反応を示すことが示された。教師から失敗を指摘・批判された後には、仲間からの失敗を指摘・批判された後よりも高い作品評価と挑戦性を保っていたことから、幼児が教師の批判的評価を、単なる現在の状態の否定ではなく、やり直しや今後の成長・発達への期待として読み取っている可能性が示唆された。教師からの批判に対する反応については、他者の心的状態の理解との関連も指摘されており (Cutting & Dunn, 2002)、この点についてもさらなる検討が必要である。

引用文献

- Cutting, A. L., & Dunn, J. (2002). The cost of understanding other people: Social cognition predicts young children's sensitivity to criticism. *Journal of Child Psychology and Psychiatry*, 43, 849-860.
- Diener, C. I. & Dweck, C. S. (1978). An analysis of learned helplessness: Continuous changes in performance, strategy, and achievement cognitions following failure. *Journal of Personality and Social Psychology*, 36, 451-462.
- Heyman, G. D., Dweck, C. S., & Cain, K. M. (1992). Young children's vulnerability to self-blame and helplessness: Relationships to beliefs about goodness. *Child Development*, 63, 401-415.